

ぐるめ散歩

弁当

あじさい

あじさいは家庭の味が楽しめる手作り弁当と惣菜を会社や病院などに届けるほか、店舗で販売している。

狛江市などの生活クラブ生活協同組合の組合員が出資して昭和59年に発足、狛江駅近くで弁当販売と配達を始めた。平成16年に現在の場所に



☎3430-6286 中和泉4-25-1
営業=午前9時～午後3時(月～金) 日曜休み



ひとり親家庭へ食料支援 食品の寄贈を受け付け

NPO法人フードバンク狛江が食品の募集を行っている。学校の長期休暇にひとり親家庭へ食料を無償提供するため、狛江市と連携して3年前から行っている。

新型コロナウイルスの影響が長引く中、昨年の冬休みにひとり親家庭の子育て応援を行ったところ、昨年の夏休みの107世帯を上回る過去最多の申し込みがあり、116世帯(332人、高校生以下の子ども118人)に食品を届けた。

同会では学校の給食がなくなる春休みに食料の無償提供を行うため、3月15日までに賞味期限1カ月以上の常温保存の食品を受け付ける。場所は狛江市社会福祉協議会、こまえくぼ1234、こまえ正吉苑、こまえ苑、フード

バンク狛江事務所・倉庫(西野川1丁目)、フードバンク作業所(市役所内)。また、配送費などにあてる寄付金も募っている。
問い合わせ ☎5497-0272 フードバンク狛江。

地震への備えを再確認 7日まで春の火災予防運動

「もう一度 確認 安心 火の用心」を合い言葉に1日

11日(日)に東日本大震災から10年を迎えるのを機に、東京消防庁では地震に対する備えを再確認し、消火器の使い方を確認するなど防災行動力を高めるよう呼びかけている。また、オンラインで防災知識が身につくYouTube

活用もPRしている。
問い合わせ ☎3480-0119 狛江消防署。

店頭で三色丼、カレーライス、いなりも販売している。



安全な食材で家庭の味 温かい手作り弁当を配達

おかずは家庭料理が中心でバラエティーに富んでおり、天然素材を使い、化学調味料を使っていない。管理栄養士や調理師の資格を持つメンバーが栄養などのバランスや同じおかずが続かないようメニューに配慮している。

代表の宝範子さんからメンバーは、安全な食材や調味料を使い、できるだけ手作りするよう心がけており、多くの人に好評だという。

弁当は2個1,400円以上から配達に

■おすすめMENU■
①日替わり弁当¥700 / ②三色丼(要予約) ¥540 / カレーライス(水曜) ¥700 / いなり(2個、月・木) ¥200 / からあげ弁当 ¥700 (税込)

狛江三叉路に電光掲示板 防災や行政情報を伝える

狛江三叉路交差点のグラウンドル狛江ビル(東和泉1-6-7)2階に、昨年11月に狛江市や都の行政情報や生活情報などを伝える大型電光掲示板が設置された。この「狛江三叉路ビジョン」は縦1.8m、横3.2mで、(株)パス・コミュニケーションズ(本社=千代田区)が三多摩地区で初めて設置した。情報を流すのは午前7時から午後8時で、市や都の情報のほか、狛江消防署、調布警察署などの情報、天気予報などを伝えている。情報は1週間程度で入れ替えており、将来は音声も流す予定だ。また、災害発生時には市が配信する「こまえ安心安全情

報メール」の内容やJアラートの文字放映も行う。

同社は広告代理業や渋谷駅前のスクランブル交差点などで大型ビジョン事業を手がけ、東和泉3丁目のアルゼンチンタンゴのライブハウス「狛江オルテンシア」の運営にも関わっている。令和元年の台風で市内で浸水被害が出たことを知り、狛江三叉路に大型ビジョンを設置し防災情報を発信することを思いついたという。

設置場所を提供した谷田部米店では、信号待ちの間に電光掲示板の情報を熱心に読む人が多いと話している。



狛江三叉路交差点に設置された電光掲示板(左上)



最優秀賞・夏風情



優秀賞・多摩川の夕景



優秀賞・雪の降る町



優秀賞・主人を待つ孤船



優秀賞・紅梅咲くむいから民家園

令和2年度狛江市観光写真コンクール 多彩な狛江の魅力再発見

過去最多171点から入賞作10点選ぶ

令和2年度狛江市観光写真コンクール(狛江市観光協会主催)の審査会が2月16日(日)に狛江市役所で行われ、最優秀賞に都人さんの「夏風情」など入賞作品10点が決まった。

今回のコンクールは狛江市制施行50周年記念事業として「狛江の魅力再発見!」をテーマに令和2年9月1日(日)から令和3年2月1日(日)まで募集を行い、71

人の応募者から過去最多の171点の作品が寄せられた。応募は狛江市の人が8割近くを占めたが、調布市や世田谷区、川崎市などの人からも作品が寄せられた。

審査は、審査委員長の小関和弘(和光大学表現学部教授、松原俊雄市長、(株)シグマ プロサポート課課長桑山輝明さん、狛江市観光協会の白井昇会長、藤田克彦副会長、白井和恵会計の6人



狛江市観光写真コンクール入賞者

賞	題名(写真は丸中数字)	氏名(敬称略)
最優秀賞	夏風情	都人
優秀賞 市長賞	多摩川の夕景	てつ
優秀賞 観光協会賞	主人を待つ孤船	斉藤里莉
優秀賞	雪の降る町	谷口幸三
入選	紅梅咲くむいから民家園	小池基夫
	木漏れ日を受ける聖観世音菩薩①	タキちゃん
	トホホな家族②	山本敏子
	秋の竹林、彩るパレット③	こまえそだち
	真冬の多摩川、早朝の気嵐④	Keiko Uda
花筏の枯山水⑤	七海ひとみ	

手織りの会

手織りの会(五十嵐八重子代表)が17日(日)～30日(日)まで会員が作った作品約60点を中央公民館2階のショーケースに展示する。

同会は平成15年に織機を使った作品作りを楽しもうと発足した。現在は50～70代の女性8人が月1回第4土曜日の午後1時に集まって講師の指導を受けながら、自分のレベルに合った作品作りを楽しんでいる。多様な織り方ができる幅50cmほどの卓上織機を使うのが特徴

で、麻・ウール・シルクなど様々な素材の糸で織った生地をバッグやマフラー、クッションカバー、タペストリーなどに仕上げる。

創作は主に家でっており、会員たちは「手織りは人生の楽しみで、手と頭を使うため老化の防止にもなるので、これからも続けていきたい」と話し、1人で家でできる趣味としてコロナ禍でも楽しめるという。

公民館での作品展示はこれまで年1回催してきたが、昨年は緊急事態宣言で公民館が閉館したため、会期が半分になったが、今回はより多くの人に手織りの良さを味わってほしいという。会員たちは「私たちも楽しみながら作っているのだから、気軽に見に来てください」と呼びかけている。

問い合わせ ☎3489-5433 FAX3489-5434 五十嵐さん。



手織りの布で作った作品

スポーツ